

● 火災を防ぐためには

これまでにあった事例から、出火前にみられた特徴的な兆候や誤った行動については以下のとおりです。

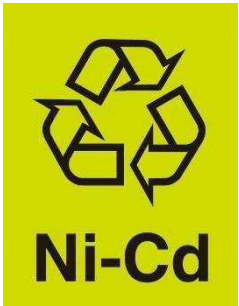

- 出火の1～2週間前からバッテリーの減りが速くなった。
- 充電中に以前と比較して熱くなっていた。
- 内部から膨張し、変形していた。
- 充電しても、満充電にならない。
- 動作不良を起こしていたが、充電してみた。
- 充電中にパチパチという異音がしていた。
- 充電中に異臭がした。
- 水没したが、時間が経ちまた使用できるようになったので使用していた。
- 夏季の車内など高温となる場所に長時間放置していた。
- 長期間使用しておらず、完全に放電してしまった。
- 充電部分の差込み部分の接触が悪かったが、そのまま使用していた。
- 初期不良で使用できないにも関わらず、繰り返し使用を試みて充電する。
- 専用の充電器で充電したことがない。
- 専用充電器が壊れ、差込みの合う充電器を使っていたが、電圧の確認などはしたことがない。
- カバンなどに入れていたが、カバンを放り投げたりして、強い衝撃を与えていた。
- 小動物を飼育しているが、噛んだり、唾液が付着したことがある。
- 廃棄の際に分別のために分解する。
- スマートフォンなどをズボンの後ろポケットに入れたまま座ったりして、強い外力を与えた。

以上のような兆候が現れた時には使用をやめ、各製造会社や販売店へご相談ください。また、兆候が現れない場合でも火災に至るケースもありますので、上記のような誤った行動は控えるとともに、取扱説明書を熟読した上で使用しましょう。

● 小型充電式蓄電池のリサイクルについて

小型充電式蓄電池とは？

充電して繰り返し使える小型電池で、回収の対象になっているのは、ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池、小形密閉形鉛蓄電池の4種類で、電池にリサイクルマークが表示されています。

			
ニカド	ニッケル水素	リチウムイオン	小形密閉形鉛蓄電池

小型充電式電池のリサイクル

小型充電式電池は、主な材料としてニッケル（Ni）、カドミウム（Cd）、コバルト（Co）など希少な資源が使われていることから、平成13年4月、「資源有効利用促進法」により、小型充電式電池製造メーカーや小型充電式電池を使用する機器メーカー、それらの輸入業者などに回収、再資源化が義務付けられました。

どこで回収しているの？

小型充電式電池の回収、再資源化は電池メーカー等が会員となって設立された「一般社団法人JBRC」のリサイクル協力店（電器店・ホームセンター・スーパーなど）で実施しています。（お近くのリサイクル協力店はホームページでご確認ください。）

また、携帯電話・スマートフォンの小型充電式電池の回収は、モバイル・リサイクル・ネットワークなどで推進されており、各社のショップ等で実施しています。

一般社団法人JBRCホームページ：<https://www.jbrc.com/>

モバイル・リサイクル・ネットワーク：<http://www.mobile-recycle.net/>

（一般社団法人電気通信事業者協会・一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会）

● 火災事例

事例1 「電動アシスト自転車用バッテリーを充電中に出火した火災」

(平成28年4月 17時頃 立川市 住宅)

この火災は、住宅1階のリビングキッチン内で電動アシスト自転車用バッテリーの出力電圧が異なる充電器で充電したため、時間の経過とともに過充電になり、電池内の正極と負極間で短絡を起こし、出火したものです。

居住者の女性が入浴中、リビングで「パン」という音がしたため、浴室から出て確認するとリビング内に黒煙が充満しているのを発見しました。

写真 1-1 出火箇所の焼損状況



写真 1-2 焼損した電池



事例2 「ズボンのポケットに入れたスマートフォンが破損し出火した火災」

(平成27年5月 7時頃 江戸川区 事務所)

この火災は、事務所の勤務者が屋内階段を下りている際、足を滑らせてしりもちをついたため、ズボンの後ろポケットに入れていたスマートフォンのバッテリーパックが破損し、電池内の正極と負極間で短絡を起こし、衣類に着火し出火したものです。

火元者が、階段で足を滑らせてしりもちをついた際、「シュー」という音とともに、ズボンの後ろポケット辺りが熱くなったため、スマートフォンを取り出すとスマートフォンから炎が出ているのを発見しました。

写真 2-1 ズボンの焼損状況



写真 2-2 スマートフォンの焼損状況



事例3 「リュックに入れた電子たばこから出火した火災」

(平成28年9月 13時頃 渋谷区 店舗)

この火災は、物品販売店舗6階の売場内を歩いていた外国人観光客が、背負っていたリュックに入れていた電子たばこの予備バッテリーが、セル内部で短絡して出火したものです。

店舗に勤務している従業員は、勤務中に「バーン」という破裂音を聞き、破裂音の方向を見ると、通行人の外国人のリュックから炎が上がっているのを発見しました。

写真3-1 店舗内出火箇所の状況

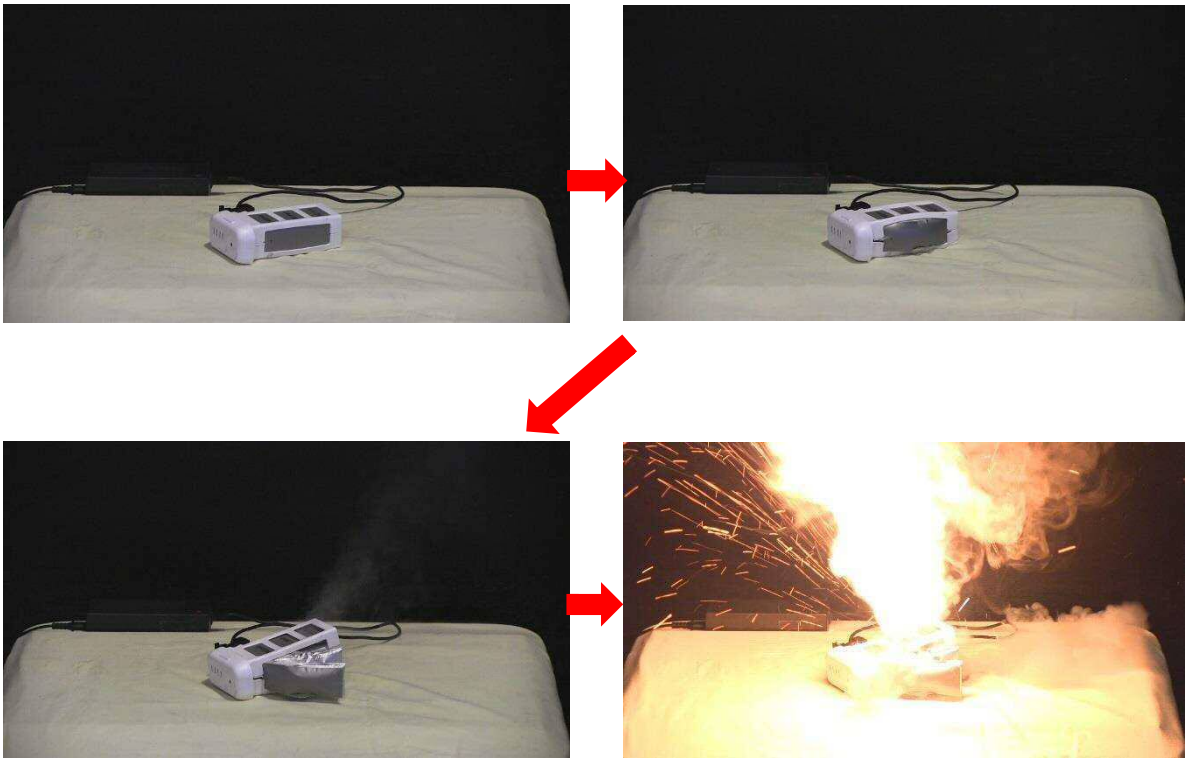


写真3-2 リュックの焼損状況



● 資料映像

ドローン用互換バッテリーを他機器の充電器を用いて充電



リチウムイオン電池を圧潰

